

## 第 20 回市立千歳市民病院経営懇話会 会議概要

【日 時】 令和 6 年 3 月 25 日（月） 18：30～19：00

【場 所】 市立千歳市民病院 2階 講義室 1・2

### 【出席者】

◎委員 吉田 淳一 委員（会長）、坂本 孝志 委員（副会長）、  
山本 長史 委員、木村 文枝 委員、緒方 晋 委員、富永 壮 委員、  
林 富子 委員、谷川 絹子 委員、山田 喜一 委員

◎アドバイザー 公認会計士 渡辺 典之 氏

◎市 側 院長 伊藤 昭英、副院長 福島 剛、  
看護部長 玉井 留理子、事務局長 島田 和明、  
事務局次長 小島 一則、総務課長 青山 聡、  
経営企画課長 関原 範和、医事課長 高田 基秋、  
財政係長 岩瀬 雅史、企画係長 甲木 心之介、企画係主任 本野 真梧

### 【欠席者】

◎委員 松本 千恵子 委員

## 1. 開会

### （事務局）

本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。ただいまから「第 20 回 市立千歳市民病院経営懇話会」を開催いたします。

まず、本日の会議の出席状況について、ご報告いたします。本日は、懇話会委員 1 名が欠席となっておりますが、委員の半数以上の出席がありますので、市立千歳市民病院経営懇話会設置要綱第 6 条第 2 項の規定に基づき、本日の会議が成立していることをご報告いたします。

次に、資料の確認をさせていただきます。事前に資料 1 及び資料 2 の 2 点を配付しております。内容の詳細につきましては、後ほどご説明いたします。

それでは、吉田会長、よろしく願いいたします。

### （会 長）

委員の皆様、お忙しいところ大変お疲れ様です。

さて、本日の議題は、市民病院の来年度の予算となっております。なかなか厳しい状況となっておりますので、いろいろな角度からご意見をいただければと思います。

それでは早速、次第に従いまして進めてまいります。

## 2. 議題

### (1) 令和6年度予算と主な取組について

(事務局)

資料に基づき、ご説明させていただきます。

まず、はじめに議題(1)『令和6年度予算と主な取組』につきまして、ご説明いたします。資料1をご覧ください。

はじめに、「1 市立千歳市民病院経営強化プランの目標」についてであります。市立千歳市民病院経営強化プランでは、更なる経営健全化に向けた取組を進めるとともに、地域の基幹病院として、持続可能な医療提供体制を確保し、安全で質の高い医療を提供するため、以下の6つの事項について、実施計画を定めております。

また、本プランでは、記載の「数値目標の表」のとおり、経営の改善・強化や、医療機能や医療の質、連携の強化等に係る10項目の「経営指標」と3項目の「医療機能等指標」につきまして、令和9年度までの数値目標を設定しております。

続きまして、2ページをご覧ください。「2 令和6年度予算について」、ご説明いたします。

「(1) 収支について」であります。表は、令和6年度予算と経営強化プランにある収支計画との比較となっております。

令和6年度予算の経常損益は、計画より8,458万1千円の減、収支悪化となる、1億5,653万4千円の損失を計上しております。

収入・支出別に主な項目を見ますと、収入におきましては、医業収益のうち、入院収益で40億2,360万円、外来収益で20億6,539万5千円、医業外収益では7億4,892万5千円を見込み、経常収益全体では76億2,703万2千円、計画より3億3,474万3千円の増を見込んでおります。

計画より増となった主な要因としましては、患者1人1日当たり診療収入の上昇によるものであります。

また、支出におきましては、医業費用のうち、職員給与費で38億854万7千円、材料費で16億719万7千円、経費で14億7,052万1千円、医業外費用では3億5,841万9千円を見込み、経常費用全体では77億8,356万6千円、計画より4億1,932万4千円の増を見込んでおります。

計画より増となった主な要因としましては、医師や看護師など職員の増員に加え、会計年度任用職員の勤勉手当支給に伴う手当の増加などによる職員給与費の増のほか、抗がん剤など高額な薬品使用量の増加など材料費の増などを見込んだものなどによるものであります。

このように、計画と比較して単年度損益は悪化しておりますが、深刻な医師不足が課題となっている中において、医師をはじめとした医療従事者の人員体制の拡充を図ることで、救急・高度医療の推進を可能とし、入院・外来ともに患者1人当たりの診療単価の上昇に繋がられていることは、中期的な経営の観点からは好材料であると考え

ております。

引き続き、「経営強化プラン」に掲げた取組を着実に進め、地域の基幹病院として必要な役割を果たし、健全で安定した経営基盤の確立を図ってまいります。

続きまして、3ページの「(2) 主要な経営指標及び医療機能等指標」につきまして、ご説明いたします。

経営の効率化・安定化に向け、年度ごとに設定している主要な経営指標及び医療機能等指標では、「患者1人1日当たり診療収入(入院・外来)」、「紹介率」、「逆紹介率」の4項目におきまして、いずれも計画の範囲内となっておりますが、その他の9項目におきましては、いずれも計画を下回っております。

計画を下回った主な要因としまして、「経常収支比率」、「医業収支比率」及び「修正医業収支比率」につきましては、計画と比べ、入院及び外来収益の増加により経常収益及び医業収益が増となったものの、職員給与費や材料費の増加により経常費用及び医業費用がそれを上回る額の増となったことによるものであります。

「病床利用率」及び「1日平均患者数(入院)」につきましては、これまでの患者動向や今後の診療体制を踏まえた入院患者数の減、「1日平均患者数(外来)」につきましては、他の医療機関への逆紹介数の増などによる外来患者数の減によるものであります。

また、「職員給与費対修正医業収益比率」につきましては、修正医業収益が計画より2億7,995万4千円の増となるものの、医師や看護師などの増員に加え、会計年度任用職員の勤勉手当支給に伴う手当の増加などにより、職員給与費が計画より2億2,805万9千円の増となることによるものであります。

「材料費対修正医業収益比率」につきましても、外来化学療法等に係る高額な抗がん剤の使用量の増加など材料費の増により、計画に比べ医業収益に対する材料費の割合が増加したことによるものであります。

「常勤医師数」については、36名となり、計画の40名には至っておりませんが、非常勤嘱託医5名も合わせ、診療体制の維持を図っております。

続きまして、4ページ、「(3) 令和6年度の主な取組」につきまして、ご説明いたします。

はじめに、「役割・機能の最適化と連携の強化」についてであります。内科系の2次救急と外科系の1次・2次救急は、継続して実施するとともに、循環器科、小児科につきましては、引き続き、年間を通して2次救急に対応するよう救急医療体制の維持を図ってまいります。

また、令和5年度の「救急外来患者数及び救急入院患者数の実績」及び令和6年度の「1次・2次の救急開設予定日数」につきましては、表のとおりとなっております。

続きまして、5ページ「医師・看護師等の確保と働き方改革」についてであります。診療体制の充実を図るため、医師数の維持及び定着に取り組むとともに、増員に向けて、大学医局への派遣要請活動や医師専門人材紹介会社の活用等を積極的に行ってま

います。

また、基幹型臨床研修病院として、医育大学の初期臨床研修医を受け入れてまいります。

なお、病院職員数につきましては、令和6年度は、全体で321名を予定しております。

下段の表は、常勤医と嘱託医を合わせた診療科別医師数の推移を掲載しておりますが、令和6年度は、内科、循環器科、消化器科で各1名が増員となりますが、整形外科で1名減員となる予定です。この結果、全体で前年度から2名増の41名での診療体制を予定しております。

続きまして、6ページに移りまして、「施設・設備の最適化」についてであります。医療技術の進歩や医療ニーズの高度化・多様化に対応するため、医療機器等の整備には、毎年1億円から2億円程度の費用を投入しておりますが、令和6年度の医療機器等整備事業費は、1億4,500万円を計上しており、前年度に比べ、2億7,300万円の減となっております。

主な購入予定機器につきましては、内科の「超音波診断装置」など、表のとおりとなっております。

なお、資料にはございませんが、令和5年度（今年度）の決算見込みの状況についてであります。新型コロナウイルス院内集団感染が発生した前年度（令和4年度）に比べますと入院・外来ともに患者数が増加したものの、陽性患者等の受入病床確保の継続を図り、一部病床を休床としたことなどの影響により、入院・外来ともに患者数は伸び悩んでおります。また、コロナ関連の補助金収入も廃止又は縮小となった一方で、費用側においても給与改定などによる人件費の上昇や物価高騰の影響もあり、予算と同様に赤字での決算となることを見込まれております。

資料1の説明につきましては、以上となります。

（アドバイザー）

計画と比較して非常に厳しい予算編成となっているかと思えます。

収益では、令和5年度実績から算出していると思えますが、患者1人1日当たり診療収入が非常に高い水準を示しております。市民病院では以前から患者1人1日当たり診療収入が全国平均と比較して非常に高い数字で出ており、病院全体として様々な対策を講じているのがよく表れているものとなっております。

一方、費用では、会計年度任用職員の給与を計上する必要があり、職員給与費がどうしても高くなってしまい、材料費についても全体的に高騰しており、市民病院だけではなく、急性期医療を担う病院は共通して増加する傾向にあります。ただし、経費については、他の病院においては光熱水費が増加し、下げる方法がなかなかないという状況ではありますが、市民病院においてはあまり増加しておらず、日ごろの取組からこの

ような数字になっているのがわかります。

全体的には、プランと比較すると赤字となっており、厳しい状況ではありますが、高い収益力を生かした非常によくできた予算だと思っております。

(A委員)

今回の令和6年度診療報酬改定が、市民病院の経営にどのような影響を与えるとお考えですか。

(院長)

現在、シミュレーションを行っているところではありますが、全体的にみると増収になる見込みだと捉えています。ただし、人件費に対する上昇分であるため、収入が増えたとしても、それをそのまま給与に充てる必要があるものと考えています。

(B委員)

プランと比較して赤字額が増えていますが、プランの最終年度である令和9年度には予定どおり黒字になるのでしょうか。

病院として、何か考えていることがあるのか教えていただきたい。

(事務局)

患者1人1日当たり診療収入は年々上昇しているため、今後も更なる上昇を図るため、高度医療等を推進して収益を確保していく必要があると考えています。また、コロナ対応等により患者数が伸び悩んでいるところがあるため、4月からはコロナ病床を廃止し、コロナ前と同様に患者を受け入れていきたいと思っております。

また、資金面においては、内部留保資金を一定程度確保しながら中期的な経営を見据えていきたいと考えております。

(B委員)

コロナ対応が終わって、患者が元に戻ってくるということであれば、患者1人1日当たり診療収入の高さをうまく生かして、できるだけ早く黒字にできるよう病院運営の舵を取ってもらえればと思います。

また、内部留保資金があるうちは問題ないと思いますが、高度医療を担うためには新しい医療機器等が必要になることから、その分の資金は確保しておかなければいけません。

収支計画では、当分赤字が続くこととなっておりますが、少しでも早く損益が回復するよう実行計画を進めていただきたいと思います。

## (2) その他

(事務局)

それでは、その他としまして、『今後のスケジュール』につきまして、ご説明いたし

ます。資料2をご覧ください。

次回、令和6年度の経営懇話会につきましては、合計2回の開催を予定しております。第21回の会議につきましては8月下旬に、第22回の会議につきましては、来年3月下旬を予定しており、内容は記載のとおりとなっております。

資料2の説明につきましては、以上となります。

(会長)

現在の委員は今月で任期が終了となりますので、院長から一言いただければと思います。

(院長)

皆様、本日も夜遅くまでの会議に、ご出席いただきありがとうございます。委員の皆様におかれましては、3年もの長い間、委員へ御就任いただきまして、誠にありがとうございました。

当懇話会においては、各団体からの御推薦や公募での御参加など、吉田会長をはじめ、委員の皆様、各団体の皆様に、当院を支えていただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨今の医療を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の発生以降、非常に厳しいものとなっております。

残念ながら、当院においても令和4年度においては、経常収支黒字を達成することができず、今年度も赤字決算となる見込みとなっております。

しかしながら、昨年5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行され、入国制限や各種イベント等での人数制限などの規制が撤廃されるなど、以前の日常が戻ってきていることから、引き続き、地域の基幹病院として、救急医療や高度医療などの不採算医療に挑みつつ、小児・周産期医療においては、道内一若いまちを支えていかななくてはなりません。

加えて、昨年2月にはラピダス社が当市に次世代半導体の製造拠点を整備することを表明し、現在各インフラの整備が進んでいるところであります。

今後、様々変化していくことが予想される市の姿に合わせて、医療需要も変化し、当院に求められる役割はさらに増していくものと考えておりますが、スタッフ一同、一生懸命、地域の基幹病院としての役割を果たして、医療の質の向上と経営黒字化に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、委員再任をご承諾いただいた皆様におかれましては、引き続きご協力いただき、心より感謝申し上げます。

今後とも、忌憚のない積極的な御意見等をいただき、この病院を支えていただけたら幸いです。

これからも、どうぞよろしく願いいたします。

(会長)

皆さま3年間いろいろなご意見をいただきありがとうございました。

市民病院は、この地区で中心となる医療機関であり、非常に頑張ってくれていると思っております。

これからコロナが終わり、ラピダスもできて、今後、滞留人口は必ず増えることになります。そのため、市民病院だけではなく、市内や近隣の医療機関全体で医療体制について考えていかなければいけないと思います。

今後も、病院関係者の皆さまには大変な中頑張っていたただかなければいけないと思いますが、いろいろな面から協力するのが我々の使命だと考えております。

皆さま3年間ありがとうございました。

### 3. 閉会

(会 長)

それでは、本日の会議は閉会といたします。皆さん、本日はお疲れ様でした。

<終了>